

「大隅北小学校の棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

曾於市立大隅北小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計22人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年4月下旬～5月下旬 運動会前の練習（本校体育館及び校庭）

令和4年9月中旬～10月中旬 秋祭り前の練習（地区公民館）←【中止】

令和5年2月～3月（本校体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和4年5月22日（日）大隅北小学校合同運動会（本校校庭）

令和4年10月15日（土）秋祭り（蹲踞（うづくまる）神社及び地区公民館）

※ 令和2～4年は、新型コロナウイルス感染症対策のため秋祭りは中止

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

棒踊り（ぼうおどり）

(2) 由来

五穀豊穰への祈りや感謝が込められた踊りで、開始時期や由来は定かではない。現在、受け継がれている踊りは、上坂元集落を中心に踊られていたものが元になっており、蹲踞神社への奉納や秋祭りで披露されてきた。

(3) 構成等

こぶしのきいた歌にあわせ、棒をカチッカチッと打合せながら「ヨイヤサー」の威勢のよい囃子とともに踊る。踊りの動きや型は、示現流の棒術を彷彿させるもので、6人1組で3尺棒と6尺棒で勇ましく打ち合う。

5 保存会や地域との連携の具体

明確な保存会は存在せず、地域の有志で歌と踊りを受け継いでいる。関係者の地域おこしへの思いから秋祭りの披露を中心に取り組んでいたが、年々、後継者や踊り手の減少で伝承していくことが難しくなっていた。

そこで、子ども会や中学校に協力を依頼して、披露する機会を増やしてきた。大隅北中学校が廃校になった平成17年（2005年）以降は、小学校が主体となって運動会で発表している。子ども会では、中学生も小学生と一緒に練習する場をつくって交流を図っている。

歌や踊りについて記載された資料はなく、聞き伝えで伝承されていることや過疎による人口減少から後継者の育成が課題となっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

教育課程に棒踊りの練習や調べ学習を位置付け、郷土学習の一環として取り組んでいる。歌い手は、踊り手に合わせて速度やタイミングを微妙に調整して歌うため、録音した音源を使用して練習することが難しい。地域の歌い手に講師を依頼して学習を進めている。児童数の減少により5・6年生で取り組んでいたものを3年生～6年生に対象学年を広げた。運動会や秋祭りの前だけではなく、6年生が卒業する前の2月～3月にも高学年が低学年に教える機会を設けている。踊り手や観客の気分を高揚させるために、衣装や襷等の装飾にも年々工夫が加えられてきた。

7 取組の様子



運動会前の練習(2022年5月)



運動会で披露(2022年5月 本校)

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【6年生児童】

今年、初めて長い棒を使って踊った。最初は友達と息が合わなかったけど、練習するにつれて息があい、キレイのある踊りを披露することができた。棒踊りの伝統はこれからもずっと続いてほしい。

【教職員】

棒踊りを地域の方に教えてもらい、運動会で披露する活動を通して、郷土に対する思いを深めることができた。また、高学年の踊りを見て、「自分たちも踊りたい。」や「6年生になったら長い棒で踊りたい。」と憧れを抱く子どもも多い。

【保護者及び地域の方】

子どもたちが棒踊りを通して、ふるさとのことを大切に思ったり、地域の方々と交流したりすることがうれしい。小学校や子ども会で取り組んでもらえてありがたい。